

調査結果にみる青少年を取り巻く課題

○ 永住意識

- ・住んでいる市町に愛着や誇りを持っている青少年は前回調査から増加しており、住んでいる市町に将来も「住みたい」と答えた割合も増加しているが、「愛着」に比べ「住みたい」の割合が低く、またそれぞれ年代が高くなるにつれ割合が低くなっているなど、愛着意識を永住意識につなげ、そうした意識の継続を図ることが今後の課題である。

○ 学校生活

- ・各年代とも、8割以上が「学校生活に満足」と回答し、前回調査より増加しているが、不満とした理由は、各年代とも前回調査同様「学校生活になんとも興味を持ってない」が多く、学習や行事などを通じ意欲をもって学校生活に取り組めるよう働きかけが今後必要である。

○ 地域活動への参加

- ・地域活動に最近「参加したことがない」は年代が高くなるにつれ割合が高くなっている。また、ボランティア活動への参加意思がある割合は、前回調査と比較すると、中高生で割合が高くなっているが、青年は、「参加してみたい」割合が減っており、中高生で高まった意識を一過性で終わらせることなく、継続的に参加可能な仕組みづくりが求められる。

○ 県内への就職意識

- ・「県内でずっと働きたい」割合は前回調査と同程度であるが、中高生は約2割にとどまっており、県内でずっと働きたいと思える環境づくりが求められる。

○ 人間関係の形成

- ・自己評価において、「自分と性格や意見のあわない人とはあまりつきあいたくない」が、高校生が約7割、青年で8割台半ばと高くなっており、年代が高くなるにつれ、人間関係形成に苦手意識を持っている青少年が多く、孤立化することを防ぐためにも様々な価値観の人との関わりを増やす機会づくりが求められる。

○ インターネット利用環境

- ・平日に3時間以上携帯電話やスマートフォンを利用する割合は、高校生で3割強、青年4割弱であり、長時間の使用による日常生活への影響が懸念される。
- ・インターネット利用上の経験で、「勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがある」、「知らない人やお店からメッセージやメールが来たことがある」など、使用上のトラブルは年代が上がるにつれ増えている。
- ・インターネットを利用する上で「特にルールを決めていない」は小学生1割台半ば、中学生2割弱、高校生約3割であり、保護者等に対し使用上のルール作りを周知啓発する必要がある。